

B型肝炎予防接種

知っておくべきこと

1 予防接種が必要な理由とは?

B型肝炎は深刻な病気です。

B型肝炎ウイルス(HBV)は下記の症状につながる短期(急性)の病気です。

- ・食欲不振
- ・下痢と嘔吐
- ・脱力感
- ・黄疸(黄色い皮膚や眼)
- ・筋肉痛、関節痛、および腹痛

さらに下記につながる長期(慢性)の病気です。

- ・肝臓への損傷(肝硬変)
- ・肝臓癌
- ・死亡

米国内で約125万人が慢性HBV感染症にかかっています。

毎年下記のような統計が出ています。

- ・8万人がHBVに感染し、その大半が若い成人です。
- ・B型肝炎のため1万1千人以上に入院の必要があります。
- ・慢性B型肝炎で4～5千人が死亡します。

B型肝炎予防接種でB型肝炎を予防できます。これは、肝臓癌の一つの形態を予防できる理由から、最初の抗癌予防接種となっています。

2 B型肝炎の感染経路とは?

感染者の血液と体液に接触すると、B型肝炎に感染します。次のいくつかの経路で感染する可能性があります。

- ・感染者との無防備な性交
- ・麻薬注射針の共有
- ・仕事中使用済みの針が刺さる
- ・出産時に感染した母親からその赤ちゃんに感染

米国におけるB型肝炎感染者の約3分の1が自分ごとくのようにして感染したかを知りません。

3 B型肝炎予防接種の対象者と接種時期とは?

- 1) 18歳以下の人
- 2) 感染リスクのある18歳以上の成人

HBV感染リスクのある成人:

- 6ヶ月以内に複数の相手と性交渉をしている人
- 男性の同性愛者
- 感染者と性的接触のある人
- 麻薬注射をする人
- 感染した血液や体液に曝される可能性のある医療従事者や公共安全従事者
- 慢性HBV感染症者と家庭内で接触する人
- 血液透析患者

自分にリスクがあるかどうか不明な場合は、医師または看護婦にお尋ねください。

- ✓ B型肝炎予防接種は下記の予定に従って受けてください。受け忘れたり、予定より遅れた場合は、できるだけ早く受けてください。最初からやり直す必要はありません。

B型肝炎 予防接種 予定		対象者		
		母親がHBV感染者である乳児	母親がHBV感染者でない乳児	幼児、青少年、または成人
時期	1回目	生後12時間以内	誕生時 - 生後2ヵ月	常時
	2回目	生後1～2ヵ月	生後1～4ヵ月 (1回目の接種から最低1ヵ月後)	1回目の接種から最低1～2ヵ月後
	3回目	生後6ヵ月	生後6～18ヵ月	1回目の接種から最低4～6ヵ月後

- 2回目の接種は1回目から最低1ヶ月後に受けなければなりません。
- 3回目の接種は2回目から最低2ヶ月後、かつ1回目から最低4ヶ月後に受けなければなりません。
- 長期的防御機能が弱まるため、生後6ヵ月以下の乳児には3回目の接種をしないでください。

11～15歳の子供は、4～6ヵ月の間隔で2回だけ接種が必要な場合があります。詳細は医師か看護婦にお尋ねください。

B型肝炎予防接種は他の予防接種と同時に受けることができます。

4 B型肝炎予防接種を受けないほうが良い人、または時期を見合わせたほうが良い人とは?

パン酵母(パンを焼くのに使用するもの)または前回のB型肝炎予防接種に対し生命に関わるアレルギー反応があった場合、B型肝炎予防接種は受けてはなりません。

接種予定時に中程度または重度の病気のある人は、通常、回復するまでB型肝炎予防接種を受けないでください。

詳細は医師か看護師にお尋ねください。



5 B型肝炎予防接種に関するリスクとは?

どんな薬剤でも同様に、予防接種は、重度のアレルギー反応などの重篤な問題の原因となることがあります。B型肝炎予防接種が原因で、重篤な障害や死亡に至るリスクは非常に少ないです。

B型肝炎予防接種を受けるのは、B型肝炎に感染するよりはるかに安全です。

B型肝炎予防接種を受ける大半の人には何の問題も生じません。

軽い症状

- 接種部分の痛みが1、2日続く(子供と青少年11人中最高1人、成人4人中約1人に発生)
- 微熱から中程度の発熱(子供と青少年14人中最高1人、成人100人中1人に発生)

重い症状

- 重篤なアレルギー反応(非常に稀)

6 中程度から重度の反応があった場合はどうしますか?

気を付けることとは?

重篤なアレルギー反応、高熱、または普通でない様子など、平常でない状態に気を付けてください。重篤なアレルギー反応はどのような予防接種においても極めて稀です。発生する場合は、接種後2、3分か

ら2、3時間以内に起こります。症状には、呼吸困難、声がかれ、喘鳴、じんま疹、青ざめ、脱力感、動悸、またはめまいが含まれることがあります。

どの様に対応すれば良いでしょうか?

- 医師に連絡するか、症状のある人を直ちに医師に連れて行ってください。
- 症状、発症した日時、予防接種を受けた日を医師に知らせてください。
- Vaccine Adverse Event Reporting System (VAERS: 予防接種有害事象報告システム)用紙を提出するよう医師、看護婦、または保健局に要請するか、自分でVAERS(米国内フリーダイヤル1-800-822-7967)に電話してください。

7 National Vaccine Injury Compensation Program (全米予防接種傷害補償プログラム)

自身またはお子様が予防接種により重篤な反応を生じる稀な場合に備え、傷害のあった方の医療費用支払を支援するため連邦プログラムが設定されています。

National Vaccine Injury Compensation Programの詳細は、1-800-338-2382までお電話いただくか、<http://www.hrsa.gov/osp/vicp/> で同プログラムのウェブサイトをご覧ください。

8 もっと詳細を知りたいのですが?

- 医師か看護師にお尋ねください。医師か看護師から予防接種の添付説明書を受け取ったり、その他の情報源を入手できます。
- 地元または州の保健局予防接種プログラムにお電話ください。
- Centers for Disease Control and Prevention (CDC: 疾患管理予防センター)にご連絡ください。
 - Call 1-800-232-4636 (1-800-CDC-INFO)
 - <http://www.cdc.gov/nip> でNational Immunization Program (国立予防接種プログラム)のウェブサイトか、<http://www.cdc.gov/hepatitis> でCDCのDivision of Viral Hepatitis (ウイルス性肝炎部)のウェブサイトをご覧ください。



U.S. DEPARTMENT OF HEALTH & HUMAN SERVICES
Centers for Disease Control and Prevention
National Immunization Program

Vaccine Information Statement
Hepatitis B (7/11/01) IMM 663ML - Japanese 42 U.S.C. § 300aa-26
Translated by Transcend Translations, Davis, CA
<http://www.transcend.net>